

上田法治療をこれから学ぶ皆様へ

九州地区上田法治療研究会

上田法治療認定講習会基礎コース in 鹿児島 事務局

古川 辰巳

上田法は1988年に小児整形外科の医師である上田正氏（現：愛知県立心身障害児療育センター 第二青い鳥学園名誉園長）が開発した治療法です。

上田法治療は、脳性麻痺児や成人の脳血管障害後遺症などの運動障害等に対して有効で、これまでに多くの学会等でその治療効果が報告されてきました。

脳性麻痺などにみられる筋肉の過緊張（固さ、つっぱり）は、上田法で確実に和らげることができます。

しかもその効果は長時間にわたり持続します。筋肉の固さやつっぱりがとれると、手・足・からだのゆがみや変形が矯正され、運動機能が短期日のうちに向上します。

上田法は5つの基本手技と4つの補助手技から成っています。

私が上田法治療を学びはじめてから15年目を迎えました。学び始めた当初は、病院に勤務しており、主に脳梗塞後遺症による運動麻痺症状を抱えた成人の方を中心にリハビリを行っていました。その後、脳性麻痺などの運動障害を抱えた小児の方に関わらせて頂くようになりました。

身体のこわばりから楽に呼吸が出来ない、夜にゆっくり眠ることができない、食事が上手く摂れない、身体の変形(側弯症など)があるといった相談に対して、上田法治療を行ってきました。

上田法治療は、生きていく上で必要な土台(呼吸、排せつ、摂食、安楽な姿勢、効率的な運動など)をつくっていく治療法だと私は捉えています。

基礎コースでは、クライアントとの「向き合い方」や身体の「触れ方」、手技や理論背景、クライアントの課題に対してどのように考えるか、上田法をどのように活用するのかなどについて、講義や実技練習を通して学びます。

上田法を通してクライアントとのコミュニケーションを行いますので、筋肉や関節のイメージ（どこにどのように筋肉がついているのか、関節はどのように動くのか）をご自身の身体で受講前に学んでおくと手技の理解が進むと思います。